

第4回検討委員会の概要

天神川の治水計画

【現在の整備状況】

○松江堀川には未着手区間が多く残されているのに対し、天神川は概ね暫定改修済み。

【従来計画】

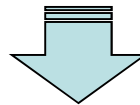
○天神川の従来計画は、昭和40年代に策定されたもので、斐伊川神戸川治水事業による治水効果が考慮されていない。

- ・大橋川の外水位は、昭和39年7月洪水の実績水位を採用

【大橋川】

○平成22年9月、斐伊川水系河川整備計画（今後20年間の計画）が策定。

- ・大橋川が河川整備計画（今後20年間の計画）により改修されると大橋川の水位が下がり、そこへ流れ込む天神川は流れやすくなる。



治水安全度が向上

【松江市街地治水対策検討委員会】

現在の整備状況における治水安全度を検証

①現段階

②河川整備計画（今後20年間の計画）で大橋川改修された段階

天神川の治水計画

【検討の手順】

- ①現在河川の整備状況と従来の河川計画の把握
- ②基本条件の再検証
計画規模と計画目標、計画高水位
確率雨量の検証
- ③現況での治水安全度の検証
- ④大橋川が河川整備計画で改修された段階での治水安全度の検証
- ⑤今後、天神川の治水対策の方向性を検討

天神川の治水対策の方向性

- 現況では、概ね30年に1回に発生する洪水（時間雨量30mm）に対して治水安全度が確保されている。
- 大橋川が河川整備計画（今後20年間の計画）により改修されると大橋川の水位が下がり、そこへ流れ込む天神川は流れやすくなる。
- よって、概ね50年に1回に発生する洪水に相当する洪水に対して治水安全度が確保される。
→ 当面は、現況河道において治水及び環境に配慮しながら適切な管理を行う。
- しかし、近年、局地的豪雨が頻発し、降雨も激化する傾向にある。
→ 将来的には、局地的豪雨による洪水に対して治水安全度が確保されるよう検討する。

内水処理計画

【H22. 1 内水処理対策（案）】

○土地の利用状況、河川の整備状況は現在の状況で検討

○大橋川の整備状況は、次のケースで検討

- ・ダム・放水路あり、大橋川現況で築堤、下流狭窄部拡幅なし
- ・内水対策（案）は、斐伊川河川整備計画の前に策定されたものであるため、下流狭窄部拡幅の改修効果が考慮されていない

【松江市街地治水対策検討委員会】

将来想定される土地利用状況と将来の河川整備状況を考慮した内水処理計画を検討

○大橋川の整備状況は、河川整備計画（今後20年間の計画）で改修された段階を想定

【検討の手順】

1) 橋北地区

- ①検討条件の整理
- ②河川整備計画で改修された段階での松江堀川の水位の検証
- ③内水排除ポンプの計画

2) 橋南地区

- ①検討条件の整理
- ②河川整備計画で改修された段階での天神川の水位の検証

内水処理計画

内水処理施設整備の方向性

〔橋北地区〕

○大橋川が河川整備計画（今後20年間の計画）で改修された段階では、昭和47年7月豪雨と同規模の洪水には、既存のポンプ（15.3m³/s）では対応できない。

○近年、市街地の宅地や道路が頻発に浸水を起こしており、早急に内水対策を行う必要がある。

→ 上追子川に内水排除ポンプ5m³/sを増設。

○ただし、松江堀川の水位が大橋川の水位より上昇し、水門を開けて大橋川へ自然排水を行っている時に、目標とする水位を上回る。

→ 内水ポンプは稼働していないため、河川改修や放水路、流域対策などの治水対策による対応を検討する。

〔橋南地区〕

○大橋川が河川整備計画（今後20年間の計画）で改修され、天神川水門が整備されると、水門の操作により対応が可能。